



## 4 研究会における 有識者発言要諦

## 研究会における有識者発言要諦

山田昌弘氏 東京学芸大学社会学部 教授

・大変面白い結果が出たと思っています。

男性のギャップは独身と結婚の間にどうもあるような気がします。

独身はアルバイトが多い、収入が少ないとかありますが、結婚してしまえば一人産もうが何人産もうが、男性にとってはたいして変わらないのかなという気がしました。

逆に女性は、結婚によってそれほど属性が変わらずに、子供が産まれてから属性が変わる。男性は結婚するしないにギャップがあつて、女性は子どもを産む産まないのギャップがあると思いました。

・一番面白かったのは、複数子家族と継続一人っ子家族の意識の違いです。1990年頃から夫婦1組あたりの子どもの数が少なくなって来たことに関していろいろ言われてきましたが、私は2つの仮説を書きました。

一つは、男性の収入が不安定になって経済的に難しいという説と、もう一つは夫婦関係が不安定になって、子どもを産めないし別れられないという説です。こうした状況が日本では強まっているように思います。アメリカは子どもがいても別れるし、また結婚して次の人と子どもを産むので、子どもの数は減らない。でも、日本においては夫婦関係が不安定になっているから、2人目が産まれにくくなっているという仮説がどうも当てはまりそうなデータという気がします。

今、離婚や夫婦関係の調査研究をしています、「子どもが産まれると夫婦仲が悪くなる」というアメリカの本の翻訳をしていて、それも日本にもあてはまってくるのかなという気がします。

2人目を産むか産まないかは、夫婦仲にありそうだと思います。

・結婚してもうまくいなくても良い経験として、次に繋げてほしいと思います。アメリカだったらそのように考えます。

・継続無子家族は、それほど親のプレッシャーもないし年収も一番高い。女性も同じ。

## 研究会における有識者発言要諦

山本恵子氏 NHK報道局社会部 記者

- ・独身の女性の目から見ると、人間関係がストレスで挙がってきているのが意外でした。男性も一人っ子が多いし、自分も親を抱えていてこれ以上は大変だというものがある。
- ・結婚した時に向こうの親の介入がすごく嫌で、そこで夫婦喧嘩になってしまうという同僚が近くにあります。両方の親がかなりうるさく介入することが女性にはプレッシャーになっているのは、割と気がつかない要素であると思います。
- ・また、結婚した人達が「結婚することはない」と言ってしまう結婚生活とは何だろうかと思ってしまう。これを伝えると夢も希望もなくなってしまう。女性の問題と今言われていますが、実は男性にエールを送った方がいいと思います。
- 親の介入を男性が止めていないとか、精神的な安定で男女にギャップがありそうですし、その意味で期待することと現実のギャップがあるのかなと感じました。
- ・自分の年齢と親のプレッシャーで結婚してはいけないということを、伝えないといけないでしょう。
- ・結婚意向がない人達、結婚をしなくてもいいという人達にとっては、異性と付き合えないとか親の扶養の問題であるとか、年齢が上がれば高齢出産の心配であるとか、そういう意味で一筋縄ではいかないのかなと思います。
- ・もしかしたら、これからは、おじいちゃん、おばあちゃん世代に口を出すなど言った方がいいのかもしれない。子どもが産まれるまでは口は出さないけれど、産まれた途端に親世代が口を出してうるさく言うってしまうのではないのでしょうか。
- ・意識が過敏というか、結婚意向があるかないかを見ると「子どもを育てる自信がない」「子供を虐待してしまいそう」ということで心配をしていると思います。心理的負担の大きさを感じます。義理の父母との人間関係に対する不安も数値が高く、いろいろ考えている様子が窺えます。考え過ぎると結婚できないのではと感じました。
- 150人の対象者のうち7%が「子ども虐待するかもしれない」と回答しているのは高い数値だと思います。どのような傾向があるのか、専門の心理分析の方に聞いてみたいと思いました。
- ・無子家族で「子どもが出来ない」という理由はやはり多いと思いました。

## 研究会における有識者発言要諦

高橋重郷氏 国立社会保障・人口問題研究所 人口動向研究部部長

・まとめる時に、どこに焦点を当てて何を目玉にするのか、ちょっと考えてしまうなと思いました。この調査自体は1回の調査なので、時系列変化という視点があるはずだが、ここからは判断できない。確かに子ども一人で留まっている人は90年代以降増えています。もしかしたらバブル経済の崩壊もあったし、そういう面が影響しているのかもしれない。その辺を留意して見ないといけないと思います。

その中で見ていくと、結婚の問題と夫婦がなぜ追加出生しないかも振り分けて見られるだろうと思います。

板本洋子氏 財団法人 日本青年館結婚相談所 所長

・結婚や出産に関しては積極的でないという結果を改めて認識させられた感じです。

未婚、既婚含めたこのマイナスイメージに対して、どのように提言をしていくのか、この結果からどんな「少子化対策」を導き出すのか改めて考える必要があると思います。

・未婚の要因に「親の老後」への責任意識がこれほど大きく影響しているとは思いませんでした。親の面倒や親との同居意識が、伝統性を重んじる地域特有のことではなく、若い世代全体にあるわけです。多様な暮らし方や介護の社会化をより広めることが重要かなと思いました。

・意外に感じたのは「異性とうまくつきあえない」という不安が女性に多いということで驚きました。個人差の問題と思いますが、結婚に必要なコミュニケーションは、どちらかというとなり男性の方が不得手だとされ、そのスキルアップが、自治体や公共団体における結婚支援のひとつの課題になっているわけです。

この結果を見ると違いました。現在恋人がいないという回答が多い中で、女性側にもたって、この課題も捉えるべきだと思いました。